

20170212 「不信仰なわたしを」

目標：目に見えず、私達にはどうすることもできない霊の領域があることを知り、主イエスは私たちの信仰に応じて、霊の領域にまたがる救を成してくださることを知る。

聖書箇所：マルコ9：14-29 時間：10分

暗誦聖句：「もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる」(マルコによる福音書9：23)

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：主イエスが取り扱ったのは悪霊の働きであるので、てんかんなど別の語に言い換えるのではなく、ストレートに霊の領域の問題として本時を扱う。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	最近の研究で、私たちが見えるもの以外のものが、実は宇宙の大部分を占めていると分かってきました。		ダークマター・ダークエネルギーの話を導入に用いる。もしこれらがなく、宇宙は今の形を保てなくなってしまいが、今のところ私たちはそれを全く調べるすべがないという領域が、宇宙の大部分だということは、少なからずおソロ気を与えようと思う。
課題探究	6分	このことは、聖書が言っているこの世界とすごく似ていると思います。今までみんな霊の世界を意識したことはないと思います。それは、素の私達には理解する力がないからなのです。あるところにお父さんがいました。息子さんが聞こえず、話せず、悪霊にとりつかれると、倒れて本当に苦しむので、イエス様のお弟子さんに悪霊を追い出してもらおうように頼んだのでした。ところがお弟子さんは悪霊を追い出すことができなかったのです。		二重の丸を書き、内側の丸を目に見える世界、外の丸を目に見えない世界と描く。聖書が言っているということで、外の丸を「目に見えない霊の世界」と書き換える。霊の世界については、子供たちは知らないだろうことなので、提示を基本とし質問は取らない。私達にはどうしようもない領域と意識づける。
		追い出せなかったのはなぜだと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・弟子に力がなかった ・悪霊が強かった ・解らない 	前回は親子礼拝だったので、子供たちは前回の聖書の光の内容を知らない。本日の箇所を、単独の出来事として今回は扱う。
		イエス様は、こういっています(19節読む)。		子供たちはおし、つんぼの語を知らない。おしは言語障害、つんぼは聴覚障害である。必要に応じて説明する。イエス様の言われる、信仰がないからだとは、想像がつかないだろう。イエス様の答えを印象付けるため、できるだけ聞いて掘り下げておきたい。
		イエス様はお父さんに信じることを訴えました。イエス様はできると信じたら、イエス様は私たちのために悪霊でさえ取り扱ってくださいます。私達にはどうにもできないようなことがこの世界にはたくさんあります。しかしイエス様にはできます。イエス様を信じていきたいものです。イエス様と一緒にいると、悪に勝てるのです。世界を変えることもできます。あの私達にはどうしようもないと思うような震災にも、イエス様を信じる私たちは、打ち勝つことができるのです。		「信仰がないから助けられなかった」のだとイエス様が言われたと、板書する。
まとめ	2分	暗誦聖句		21節から29節までを物語のようにして読む。冒頭で霊の世界は私たちがどうにもできない世界と確認したことを思い出させ、イエス様によって対抗できることを掴ませる。
				お父さんの言葉(22・24節)を振り返らせるとイメージしやすいだろう。
				188号のテーマからの反映。震災などは私たちが忘れがちな滅びの力である。